

1 次の文章を読み、下の問い(問1~4)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

$f(x)$ が実数を係数とする x の多項式のとき、複素数 α を方程式 $f(x)=0$ の解とすると、共役な複素数 $\bar{\alpha}$ も解である。

p, q を実数として、 $g(x)=x^4+px^2+q$ とする。方程式 $g(x)=0$ は $x=\frac{1}{2}+i$ も解にもつとする。

問1 $g(x)$ は、実数を係数とする x の多項式

$$h_1(x) = x^2 - \boxed{1}x + \frac{\boxed{2}}{\boxed{3}}$$

で割り切れる。

問2 複素数平面において、 $g(x)=0$ の解を頂点とする四角形の面積は $\boxed{4}$ である。

問3 $g(x)$ を問1の $h_1(x)$ で割った商 $h_2(x)$ とする。このとき、

$$\frac{4x^2-5}{g(x)} = \frac{\boxed{5}x - \boxed{6}}{h_1(x)} - \frac{\boxed{7}x + \boxed{8}}{h_2(x)}$$

が成り立つ。

問4 $\int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \frac{4x^2-5}{g(x)} dx = \boxed{9} \boxed{10} \log \boxed{11}$ である。

解説

問1 実数係数の方程式 $g(x)=0$ が $x=\frac{1}{2}+i$ を解にもつので、 $x=\frac{1}{2}-i$ も解にもつ。

よって、この2つの解をもつ2次方程式は

$$\begin{cases} \left(\frac{1}{2}+i\right) + \left(\frac{1}{2}-i\right) = 1 \\ \left(\frac{1}{2}+i\right)\left(\frac{1}{2}-i\right) = \frac{5}{4} \end{cases} \quad \text{より、} x^2 - x + \frac{5}{4} = 0 \text{ となるので}$$

$g(x)$ は $h_1(x) = x^2 - x + \frac{5}{4}$ で割り切れる。

問2 $g(x)$ は $h_1(x)$ で割り切れるので

$$\begin{array}{r} x^2 + x + \left(p - \frac{1}{4}\right) \\ \hline x^2 - x + \frac{5}{4} \Big| x^4 + px^2 + q \\ \hline x^4 - x^3 + \frac{5}{4}x^2 \\ \hline x^3 + \left(p - \frac{5}{4}\right)x^2 \\ \hline x^3 - x^2 + \frac{5}{4}x \\ \hline \left(p - \frac{1}{4}\right)x^2 - \frac{5}{4}x + q \\ \hline \left(p - \frac{1}{4}\right)x^2 - \left(p - \frac{1}{4}\right)x + \frac{5}{4}\left(p - \frac{1}{4}\right) \\ \hline \left(p - \frac{3}{2}\right)x - \frac{5}{4}p + q + \frac{5}{16} \end{array}$$

$$\text{よって、} \begin{cases} p - \frac{3}{2} = 0 \\ -\frac{5}{4}p + q + \frac{5}{16} = 0 \end{cases} \quad \text{より、} p = \frac{3}{2}, q = \frac{25}{16}$$

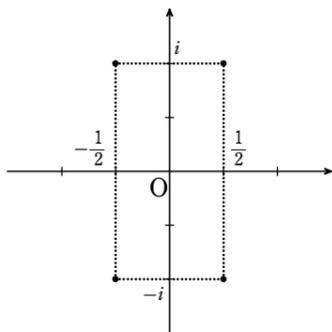
これより

$$g(x) = \left(x^2 - x + \frac{5}{4}\right)\left(x^2 + x + \frac{5}{4}\right)$$

となる。

よって、 $g(x)=0$ より、 $x = \pm\frac{1}{2} \pm i$ (複号任意)

この4点は複素数平面上では以下のようになるので



$g(x)=0$ の解によって作られる四角形の面積は $1 \times 1 = 1$

問3 $h_1(x) = x^2 + x + \frac{5}{4}$ より

$$\frac{4x^2-5}{g(x)} = \frac{ax-b}{h_1(x)} - \frac{cx+d}{h_2(x)} \quad \text{とおくと} \quad (a, b, c, d \text{ は実数})$$

$$4x^2-5 = \left\{ \frac{ax-b}{h_1(x)} - \frac{cx+d}{h_2(x)} \right\} \cdot g(x)$$

$$\therefore 4x^2-5 = (ax-b) \cdot h_2(x) - (cx+d) \cdot h_1(x) \quad (\because g(x) = h_1(x) \cdot h_2(x))$$

$$= (ax-b)\left(x^2 + x + \frac{5}{4}\right) - (cx+d)\left(x^2 - x + \frac{5}{4}\right)$$

$$= (a-c)x^3 + (a-b+c-d)x^2 + \left(\frac{5}{4}a-b-\frac{5}{4}c+d\right)x - \frac{5}{4}b - \frac{5}{4}d$$

すべての x で成立するので

$$\begin{cases} a-c=0 \\ a-b+c-d=0 \\ \frac{5}{4}a-b-\frac{5}{4}c+d=0 \\ -\frac{5}{4}b-\frac{5}{4}d=0 \end{cases} \quad \text{より、} a=4, b=2, c=4, d=2$$

$$\text{よって、} \frac{4x^2-5}{g(x)} = \frac{4x-2}{h_1(x)} - \frac{4x+2}{h_2(x)}$$

問4 $\int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \frac{4x^2-5}{g(x)} dx = \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \left\{ \frac{4x-2}{h_1(x)} - \frac{4x+2}{h_2(x)} \right\} dx$

$$= \int_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}} \left\{ \frac{2\left(x^2-x+\frac{5}{4}\right)'}{x^2-x+\frac{5}{4}} - \frac{2\left(x^2+x+\frac{5}{4}\right)'}{x^2+x+\frac{5}{4}} \right\} dx$$

$$= 2 \left[\log \left| x^2 - x + \frac{5}{4} \right| - \log \left| x^2 + x + \frac{5}{4} \right| \right]_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}}$$

$$= 2 \left[\log \left| \frac{x^2 - x + \frac{5}{4}}{x^2 + x + \frac{5}{4}} \right| \right]_{-\frac{1}{2}}^{\frac{1}{2}}$$

$$= -4 \log 2$$

2 次の文章を読み、下の問い(問1～3)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。

斜辺 BC の長さが 1 である直角三角形 ABC がある。BC を $(2n+1)$ 等分する点を B に近い方から順に M_1, M_2, \dots, M_{2n} とする。

問1 5等分したときは

$$\sum_{k=1}^4 AM_k^2 = \frac{\boxed{12}}{\boxed{13}}$$

である。

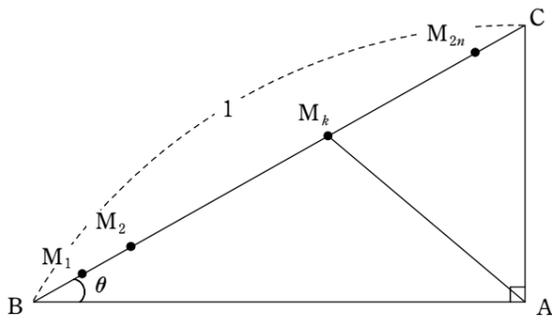
問2 任意の自然数 n に対し、

$$\sum_{k=1}^{2n} AM_k^2 = \frac{\boxed{14}}{\boxed{15}} \cdot \frac{n(\boxed{16}n+1)}{\boxed{17}n+1}$$

である。

問3 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^{2n} AM_k^2 = \frac{\boxed{18}}{\boxed{19}}$ である。

解説



$\angle ABC = \theta$ とおくと $(0 < \theta < \frac{\pi}{2})$

$\triangle ABM_k$ で余弦定理より

$$\begin{aligned} AM_k^2 &= AB^2 + BM_k^2 - 2AB \cdot BM_k \cdot \cos \theta \\ &= \cos^2 \theta + \left(\frac{k}{2n+1}\right)^2 - 2\cos \theta \cdot \frac{k}{2n+1} \cdot \cos \theta \\ &= \cos^2 \theta + \frac{k^2}{(2n+1)^2} - \frac{2k}{2n+1} \cos^2 \theta \end{aligned}$$

よって

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{2n} AM_k^2 &= \sum_{k=1}^{2n} \left\{ \cos^2 \theta + \frac{k^2}{(2n+1)^2} - \frac{2k}{2n+1} \cos^2 \theta \right\} \\ &= 2n \cos^2 \theta + \frac{1}{(2n+1)^2} \cdot \frac{1}{6} \cdot 2n(2n+1)(4n+1) - \frac{2 \cos^2 \theta}{2n+1} \cdot \frac{1}{2} \cdot 2n(2n+1) \\ &= 2n \cos^2 \theta + \frac{n(4n+1)}{3(2n+1)} - 2n \cos^2 \theta \\ &= \frac{n(4n+1)}{3(2n+1)} \dots\dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

問1 ①で、 $n=2$ のとき

$$\sum_{k=1}^4 AM_k^2 = \frac{2 \cdot 9}{3 \cdot 5} = \frac{6}{5}$$

問2 ①より

$$\sum_{k=1}^{2n} AM_k^2 = \frac{1}{3} \cdot \frac{n(4n+1)}{2n+1}$$

問3 ①より

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^{2n} AM_k^2 &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{4n+1}{3(2n+1)} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{4 + \frac{1}{n}}{3\left(2 + \frac{1}{n}\right)} \\ &= \frac{2}{3} \end{aligned}$$

3 次の文章を読み、下の問い(問1~4)の各枠に当てはまる符号または数字をマークせよ。
 必要があれば、 $\log_{10}2 = 0.3010$ 、 $\log_{10}3 = 0.4771$ を用いること。

A と B がさいころを交互に投げるゲームを行う。最初に A が投げるものとする。
 相手が直前に出した目と同じ目を出した方が負けとし、このゲームは終わる。

問1 B がさいころを 2 回投げたところで負ける確率は

20	21	
22	23	24

である。

問2 B がさいころを k 回投げたところで負ける確率は

25	(27)	29	k	30
26	(28)			

である。

問3 B がこのゲームに負ける確率は

31	
32	33

である。

問4 A と B が n 回ずつ投げて勝負が決まらないときはゲームをやめることにする。B の負ける確率が $\frac{1}{2}$ を超えるのは $n \geq$ 34 のときである。

解説

問1 B がさいころを 2 回投げたところで負けるのは、以下の表より

回数	1回目	1回目	2回目	2回目
投げる人	A	B	A	B
出す目	何でもよい	Aの1回目と異なる目	Bの1回目と異なる目	Aの2回目と同じ目

求める確率は

$$1 \times \left(\frac{5}{6}\right)^2 \times \frac{1}{6} = \frac{25}{216}$$

問2 $k \geq 2$ で、B がさいころを k 回投げたところで負けるのは、以下の表より

回数	1回目	1回目	2回目	2回目	……
投げる人	A	B	A	B	……
出す目	何でもよい	Aの1回目と異なる目	Bの1回目と異なる目	Aの2回目と異なる目	……

……	$k-1$ 回目	$k-1$ 回目	k 回目	k 回目
……	A	B	A	B
……	Bの $k-2$ 回目と異なる目	Aの $k-1$ 回目と異なる目	Bの $k-1$ 回目と異なる目	Aの k 回目と同じ目

求める確率は

$$1 \times \left(\frac{5}{6}\right)^{2k-2} \times \frac{1}{6} = \frac{1}{6} \left(\frac{5}{6}\right)^{2k-2} \quad (k=1 \text{ のときも成立})$$

問3 (B が負ける確率) = (B が 1 回目 に負ける確率) + (B が 2 回目 に負ける確率) + (B が 3 回目 に負ける確率) + ……

より、問2 から、求める確率は

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{6} \left(\frac{5}{6}\right)^{2k-2} &= \sum_{k=1}^{\infty} \frac{1}{6} \left(\frac{25}{36}\right)^{k-1} \\ &= \frac{1}{6} \\ &= \frac{1}{6} \cdot \frac{1}{1 - \frac{25}{36}} \\ &= \frac{6}{11} \end{aligned}$$

問4 (B が 1 回目 に負ける確率) + (B が 2 回目 に負ける確率) + …… + (B が n 回目 に負ける確率) $> \frac{1}{2}$ より

問2 から

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n \frac{1}{6} \left(\frac{5}{6}\right)^{2k-2} &> \frac{1}{2} \\ \therefore \sum_{k=1}^n \frac{1}{6} \left(\frac{25}{36}\right)^{k-1} &> \frac{1}{2} \\ \therefore \frac{1}{6} \cdot \frac{1 - \left(\frac{25}{36}\right)^n}{1 - \frac{25}{36}} &> \frac{1}{2} \end{aligned}$$

$$\therefore \frac{6}{11} \left\{ 1 - \left(\frac{26}{36}\right)^n \right\} > \frac{1}{2}$$

$$\therefore \left(\frac{25}{36}\right)^n < \frac{1}{12}$$

$$\therefore \log_{10} \left(\frac{25}{36}\right)^n < \log_{10} \frac{1}{12}$$

$$\therefore n(\log_{10} 25 - \log_{10} 36) < -\log_{10} 12$$

$$\therefore n(2\log_{10} 5 - 2\log_{10} 6) < -(2\log_{10} 2 + \log_{10} 3)$$

$$\therefore 2n \left\{ \left(\log_{10} \frac{10}{2}\right) - (\log_{10} 2 + \log_{10} 3) \right\} < -(2\log_{10} 2 + \log_{10} 3)$$

$$\therefore 2n \{ (1 - \log_{10} 2) - (\log_{10} 2 + \log_{10} 3) \} < -(2\log_{10} 2 + \log_{10} 3)$$

$$\therefore 2n \{ 1 - 2\log_{10} 2 - \log_{10} 3 \} < -(2\log_{10} 2 + \log_{10} 3)$$

$$\therefore 2n(1 - 1.0791) < -1.0791$$

$$\therefore n > \frac{1.0791}{0.1582} (\approx 6.82 \dots\dots)$$

よって、 n は自然数より、 $n \geq 7$